

まちの話題

①隧道遺跡「トンカラリン」が県指定史跡へ

県文化財保護審議会で答申！

2月22日（木）、本町が誇る重要遺跡のひとつ隧道遺跡「トンカラリン」が県文化財保護審議会で県指定史跡とするよう答申され、4月に行われる県教育委員会で正式に決定する運びとなりました。

トンカラリンは、国指定史跡「江田船山古墳・虚空蔵塚古墳・塚坊主古墳」がある清原台地の東側にあり、全長約450mの



▲第1・第2トンカラリン(平成15年度調査写真)

石組み暗渠と地隙（地割れ）を利用したトンネルと開削路（みぞ）でつながっている遺跡です。近年の調査結果では、年代は出土遺物からみて少なくとも戦国時代まで遡ります。神秘的ベールに包まれている「トンカラリン」。これからも国指定史跡と同様に貴重な遺跡として文化財の保護と活用に努めています。

②すばらしい自衛官を目指し

自衛隊入隊者合同激励会・自衛隊募集相談員委嘱式



▲今年入隊を予定されている入隊者とご家族のみなさん



▲相談員の大塚昌孝さん(左)と武田正巳さん(右)

3月3日（土）、玉名市民会館で自衛隊父兄会玉名・荒尾地区協議会の主催で「自衛隊入隊者合同激励会」が開催されました。今年は、和水町から6名の方が入隊を予定されています。4月には、それぞれ全国各地の駐屯地へと配属されます。新規入隊者の皆様のご健闘とご活躍を祈念いたします。

また、今年は自衛隊募集相談員の交代の時期でもあります。併せて自衛隊募集相談員の委嘱式も行いました。菊水地区は武田正巳さん（江栗）、三加和地区は大塚昌孝さん（住吉）が相談員として活躍されます。

③地域の特色を活かして

まちづくり研修 in 山都町



▲山都町での研修会の様子

2月27日（火）、上益城郡山都町でまちづくり研修が実施されました。平成17年2月11日、旧矢部町・清和村・蘇陽町が合併して山都町が誕生しました。行政に住民の声が届くように「地域審議会」を旧町単位で設置しています。それに伴い、合併後150近くあつた行政区を28の「自治振興区」という新しい住民自治組織を設立し、そこで、今まで地区で活動していたお祭りや草刈りなどを引き続き行ってきているとのことです。

今回の研修会は、町民の皆さんを対象にまちづくりに興味のある方を募集しました。今後も、まちづくりに関心を持つていただきこうと計画していきます。

④ものを大切に

和水町地域婦人会 正副支部長研修会

2月7日（水）、長洲町有明広域行政事務組合クリーンパークファイブ（ごみ処理施設）とリサイクルプラザファイブで、地域婦人会正副支部長の研修会が行われました。



私たちの生活に密着した、当たり前のよう何気なく毎日出しているごみ。その量は平成18年度の菊水地区で一人当たり一日451gと聞き、みんな驚いていました。町によってごみの量に大きな差があるといふこと、菊水地区は他の町に比べて少ない方だということでした。

ごみ処理施設の建設費は45億7,000万円という説明を受け、参加者からは、もの大切に扱つて大量に出るごみを少しでも減らして、大切な公共施設を感謝の気持ちを持って利用していくこ。施設維持費の負担も軽減していくなくてはいけない、今回の研修で施設を見学して学んだことを日々の生活に活かしていくなどの声が聞かれました。

⑥熊本弁落語を熱演！

第5回ふなやま講座



▲商工会青年部のみなさん、ありがとうございます

⑤黄色い帽子に願いを込めて

菊水・三加和商工会青年部

2月27日（火）、4月から町内の小学校に入学する児童73名に、菊水・三加和地区の商工会青年部（杉村隆行・竹下道直会長）から黄色い帽子が町に手渡されました。「登下校中の子ども達を事故から守りたい」という願いの込められた黄色い帽子。児童のみなさん、交通安全に気をつけて、通学してくださいね。



▲熊本弁落語を熱演される三遊亭好太郎さん

えて、日本の伝統文化の一つ、落語を生で堪能していただこうと2人の落語家の方を迎えて熱演していただきました。口雅朗さんの演目は「やかん」。続いて大津町出身で平成4年に真打になつた、東京で活躍中の三遊亭好太郎さん。演目は「笑う門には福来る」。熊本弁での落語は珍しく、巧みなプロの話芸に終始会場は笑いのうずで、たっぷりお腹の底から笑っていた